

【第4分科会】①

石川直花先生（静岡・静岡県立金谷高等学校）

金谷通学路三十四次－東海道を通して学ぶ多版多色摺り木版画－

Q 1 教材費はいくらですか？

A ベニヤ板代が1人360円、それ以外の版画用紙や版画用絵の具等が1人当たり約300円ですので、合計1人当たり約660円です。

Q 2 彫刻刀は何種類ですか？研ぎは生徒が行いますか？

A 5種類（丸刀大、丸刀小、三角刀、平刀、切出し刀）です。研ぎは、あまりにも切れ味が悪い時に、教員側で行いました。

Q 3 版木は生徒が持ち帰るのですか？

A 版木は、希望する生徒には返却する予定です。昨年度のものに関してはまだ参考としてこちらで預らせてもらっています。

Q 4 場所の設定は自由ですか？指定しますか？

A 場所は自宅から学校までの通学路の中の風景であれば、自由としました。通学路の中で気に入っている風景を選ぶ生徒もいれば、歴史的に価値のある建造物の風景を選択する生徒もいました。また、自分が好きなファミリーレストランのある風景を選択する生徒もいました。「地元の文化資源を愛する姿勢を作り、継承する」というテーマのもとに授業の題材を設定していますが、そのためにはまず自分の地元を向けるということに重要だと思っていますので、場所の設定は限定せずに、生徒に自由に選ばせました。

Q 5 東海道が地元でない生徒の場合は？

A 地元で東海道が通っていない生徒も何人かはいました。ただ、本校の近くには東海道が通っていることや、美術館館長さんのお話を通して、東海道に対する興味関心が高めたうえで、通学路風景の制作を行ったことで、自分の地元に対して、これまでとは異なる視点から見つめ直すことができたように思います。

Q 6 東海道旅マップの制作は1時間で足りましたか？また、生徒の進度差にはどう対応しますか？

A 旅マップ制作はこちらで準備したワークシートに生徒が書き込む形式で行いました。ワークシートのボリュームはそれほどなかったため、生徒の進度差にそれほど差は出なかったのですが、制作時間が1時間だと、制作したものの

情報を集団内で十分に共有できませんでした。

Q 7 1人何枚摺りますか？

A 3枚摺りました。時間数の関係、生徒が失敗することも考えるとこの程度の枚数が妥当かなと思います。

Q 8 何枚もたくさん摺ることにより、版画の表現が広がっていくことについて、どのように気づかせていますか？

A その点について、全体としての指導は行っていません。ただ、提出作品を選ぶ際、自分の作品を見比べている生徒に対して、かすれの美しさや偶然表れた木目等について、個別に声をかけることはあります。鑑賞の際にも、「表現」の部分よりも、題材となった場所についてや地元に対する考え方の変化等、「地元」をキーとして鑑賞を行いました。が、「版画表現」についてもきちんと振り返っていくことが必要ですね。

Q 9 制作後の歴史的な認識づけはどうやるのでしょうか？

A 歴史的な認識づけについては、導入時に美術館館長さんのお話の中で浮世絵の歴史が少し出てきます。実際に制作を行った後に認識づけを行うことも非常に有効であると思いますので、今後検討していきたいと思います。

Q 10 2. 3年次の系統学習について知りたいです。

A 2年生ではデザインの領域で「マンホールデザイン」をテーマに、さらに地元を向けさせたいと考えています。昨年度、この多版多色摺り木版の授業を受けた2年生の集団で11月に実施予定です。3年生ではデザインの領域で、地元のお土産デザインをテーマに、地元の魅力や特性を「発信」する視点を培いたいと考えています。

Q 11 石川先生にとっての地元の魅力は何ですか？

A 地元は自分自身が生まれ育ってきた場所という意味ですが、そこには、家族やそこで時間を共有した友人の存在、過ごしてきた時間と様々な思い出が存在し、それぞれの人にとって精神的な拠り所だと思います。単なる場所としての存在ではなく、かけがえのない思い出がつまった場所、自分自身の価値観の土台として、自分自身を形成している重要な要素だと思います。